

# 国語科学習指導案

平成16年11月2日(火)

第5校時 第2学年

於： 2の1教室 2の2教室  
2の3教室 2年国語教室  
生活科室 多目的ホール  
指導者 2年赤組 小山 玲子  
2年青組 尾形 一美  
2年黄組 堺 欣也  
2年緑組 井上 秀樹  
学習ボランティア 2年保護者

## 1 単元名 ようすを考えて読もう 「お手紙」

育てようとする言語能力

「読むこと」... 語や文のまとまりに気をつけて文章を繰り返し音読することで、場面の様子を想像しながら読み取ることができる。

## 2 考察

### (1) 児童の実態

《関心・意欲・態度》

児童は、絵本を読んでもらうことが大好きで、朝の読み聞かせの時間は、多くの児童が楽しみにしている。しかし、少しお話が長くなったり、登場人物の関係が複雑になったりすると、場面の变化や登場人物の気持ちの変化についていけずに、私語を始める児童もいる。また、国語の授業においては、集中できない児童が、読み聞かせの時間以上にいるのが現状である。

音読を重視して読み取りをした「スイミー」の学習後には、学習ボランティアとの学習が楽しかったとアンケートで答えた児童が約80%であった。児童の音読に対する関心とともに保護者の関心も高まり、教科書音読の家庭学習を自主的に行える児童が増えた。

《読む能力》

学年始めの「ふきのとう」の学習時には、拙い読み方や拾い読みが精一杯の児童や、読めても十分な声の大きさが出せない児童が、どのクラスも半分以上いた。当然、内容の読み取りもできていなかった。

すらすら読めることと内容を読み取ることは、大きく関わっている。しかし、普段の学習の様子を見ると、文字を読むことが苦手で、本を読もうとしない児童が少なくないのに、1時間の中で一人一人の児童に内容を読み取らせるための音読練習の時間を確保しきれないのが現状であった。学力テストの結果を見ても、「読む能力」が他の観点に比べると大変低い結果が出た。

こうした実態を考え、全ての学習の基礎といえる「読む力」を育てるために、年間を通して音読学習の時間を確保することにした。また、「読む力」の中で「語や文のまとまりに気をつけて文章を読む能力」に焦点を当て、児童一人一人が読む機会をたくさん設け、聞き手がいるという場を設定した。具体的には、読みを中心とした単元で、少人数のグループごとに学習ボランティアに入ってもらい、児童の音読練習の聞き手として支援してもらうことにした。当該領域の前単元「スイミー」では、以下のように取り組

んだ。

5人ほどのグループに、1人か2人の学習ボランティアに音読の聞き役になってもらい、1時間の中で、1人の児童に何回も音読の順番が回ってくるようにした。すらすら読めない所は、範読をしてもらい、何度も練習を繰り返した。こうして、少人数の中に聞き手がいる状態で音読練習をすることにより、どのクラスの児童も生き生きと楽しそうに取り組めた。拾い読み程度だった児童も、友達の前で大きな声で読めるまでになった。と同時に、内容の理解も深くなった。「声に出して読めること・拾い読みでなく語や文のまとまりとして読めること」が「内容の理解」のために、いかに大切かが明らかになった。最後の読み取りの確認テストでは、今までにないよい結果を得ることができた。

しかし、中には、文章を暗記して音読するにとどまり、叙述に即して様子を読み取れていない児童もいる。このような取組は、継続していかない限り、児童の本当の「読む力」にはなっていないこともよく分かった。

#### 《言語についての知識・理解・技能》

児童は、書いてある文字を声に出して読むことが精一杯で、語や文のまとまりを意識せずに読んだり、丁寧な文体に慣れていないため文字を抜かしたり、余分に入れたりして読んでしまっていることが大変多い。これらは「スイミー」での取組から、声に出して読む回数を増やすことで改善できることが分かってきた。

会話文のある場面では、誰が話したかを理解することが、場面の様子を読み取るために不可欠である。しかし、会話文が連続すると分からなくなってしまう児童が多い。

#### (2) 教材観

心温まるがまくんとかえるくんの交流が描かれているこの作品は、アメリカの絵本作家アーノルド＝ローベルのシリーズ「ふたりはともだち」に収められている。

気がいいけれどちょっぴりわがままながまくんと、一生懸命相手に優しい言葉をかけるかえるくん。いずれも2年生にとって身近に感じられる存在である。作品のほとんどを占めているのは、この二人の対話である。地の文を抜きにしても物語の展開が分かるくらいである。せりふは人物の心情を表すので、どんなせりふを繰り返しているかで、人物像が読み取れたり、二人の関係も読み取れたりする。

これに加え、地の文の叙述を丁寧に読み取れば、より想像豊かな読みにつながると思われる。三木卓訳の文は、「スイミー」より一文が長く、修飾語も多い。また文体は敬体文となっていて、初めは児童には音読しにくいことが予想される。しかし、ユーモラスな内容に引き込まれて、児童は音読を楽しめるであろう。また、登場人物が少ないため、2年生にとって、会話文のやりとりの練習が容易であり、地の文と会話文の違いを意識した音読の学習にも格好の作品である。

また、「お手紙」の挿絵は作者自身によるものであり、児童にとっては、場面の様子を想像しながら読むための大きな手がかりであり、音読の工夫にも生かすことができる。

「スイミー」の学習経験から、児童は、自分自身が内容を十分に理解した上ですらすら読まなければ、内容が聞き手に伝わらないことはよく分かっている。この教材で聞き手を強く意識できる紙芝居劇を取り入れ、読み手として発表する機会を設ければ、意欲的に音読練習に取り組み、読むことを一層楽しむことができるであろう。

また、年間を通した音読学習で、読む楽しさを体験させることは、国語の「読む力」を高めるであろう。さらに、この取組は学習の基礎として他教科へもよい影響が期待でき、学力の向上に結びつくものと考えられる。

### 3 単元の目標

語や文のまとまりに気をつけて、様子を想像しながら声に出して読むことができる。

#### 4 単元の評価規準及び評価項目

	国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
単元の評価規準	「お手紙」を読み、自分なりの感想を持つとともに読み取った場面の様子を工夫して音読しようとしている	紙芝居劇に取り組む中で、想像を広げながら読んでいる  がまくんやかえるくんの気持ちを想像しながら、語や文のまとまり、時間の流れなどに注意して読んでいる	丁寧な言葉遣いに慣れ、会話文と地の文を区別している。 言オ（ア）
評価項目	自分なりの感想を持ち、紙芝居劇を作ろうとしている 分担を決め、工夫して音読しようとしている	句読点を意識して音読し、誰が何をしているのかを読み取っている 叙述から、かたつむりくんに手紙をたのんだかえるくんの気持ちをを読み取っている 叙述から、手紙を待っている二人の気持ちをを読み取っている 叙述から、手紙が届いた時の二人の喜びを読み取っている 読み取ったことを自分なりに工夫して音読している かえるくんとがまくんのほかのお話を、楽しんで読んでいる お手紙の内容を読み取っている	文体を考え会話文と地の文を区別している

#### 5 指導方針

導入の段階では、場面の様子や登場人物の気持ちなどを想像することが苦手な子どもたちでも楽しんで読み深められるよう、紙芝居劇を取り入れることを伝える。

叙述に即して登場人物の気持ちを想像できるよう、内容の読み取りの前に十分な音読練習を先行させる。

音読練習の段階では

めあてを明確に持たせるために、1時間ごとの重点項目をたてる。

重点項目の把握・確認、活動の振り返り、次時への意欲づけのために、自己評価カードを活用する。

一人一人が読む機会をできるだけ多くし、読む充実感を味わえるよう、児童を少人数のグループにする。このグループに学習ボランティアを導入する。

学習ボランティアの役割

場面の様子を読み取る前の段階では、語や文のまとまりに気をつけて読めるように範読を聞かせたり、聞き役になったりする。

紙芝居作りに向けて役割読みを練習する段階では、読み取ったことを生かした音読ができるように、支援カードを使って、個に応じた支援を行う。

役割読みの段階では、自分の読み方を振り返るために、中間で相互評価の時間をとる。まだつかえてしまう児童には教師が範読を聞かせ、音読練習を繰り返すとともに、内容を再度一緒に読み取る。

単元のまとめの段階では、児童が相互に読み取りの深さを確かめ合えるように、学年全体で発表会を設ける。

がまくんとかえるくんを主人公にした他のお話を読む時間を確保する。

## 6 指導計画及び評価計画（全14時間）

（関：国語への関心・意欲・態度

読：読むこと

言：言語事項）

時	学 習 内 容	評価項目	評 価 方 法
1	範読を聞いて感想を持ち，紙芝居劇にしようとする意欲を持つ。	関 -	観察
2	かえるくんがかたつむりくんに手紙をたのむ場面までを，句読点を意識して音読し，概要をつかむ。 【学習ボランティア参加】	読 -	観察・発表・自己評価カード
3	かえるくんがかたつむりくんに手紙をたのむ場面までを，様子を想像しながら読み取る。	読 -	発表・ワークシート
4	二人で手紙を待つ場面までを，会話文と地の文に気を付けながらつかえずに音読し，概要をつかむ。 【学習ボランティア参加】	読 - 言 -	観察・発表・自己評価カード
5	二人で手紙を待つ場面までを，様子を想像しながら読み取る。	読 -	発表・ワークシート
6	手紙をもらって喜ぶ場面までを，時間の流れに気をつけて音読し，概要をつかむ。 【学習ボランティア参加】	読 -	観察・発表・自己評価カード
7	手紙をもらって喜ぶ場面までを，様子を想像しながら読み取る。	読 -	発表・ワークシート
8	音読の分担を話し合う。	関 -	観察・発表
	紙芝居を制作する。（図工：6時間扱い）		
9	役割を決め，読み取ったことを自分なりに生かして受け持った場面の役割読みをする。 【学習ボランティア参加】	読 -	観察・発表・自己評価カード
10 本時	紙芝居を用いて，読み取ったことを自分なりに生かして役割読みをする。 【学習ボランティア参加】	読 -	観察・発表・相互評価カード・自己評価カード
11	自分の分担を想像を広げながら音読し，紙芝居劇として完成させる練習をする。 【学習ボランティア参加】	読 -	観察・発表・自己評価カード
12	「お手紙」の発表会をする。 （保護者自由参観）	読 -	発表・相互評価カード
13	がまくんとかえるくんの他の話を読む。	読 -	観察
14	評価テスト	読 -	テスト

11月末のフェスティバル（生活科）において，1年生，保護者，お世話になった地域の人たちを招待し，紙芝居劇を発表する。

7 本時の学習（全14時間・本時は10時間目）

本時の視点

少人数グループの音読練習において、学習ボランティアを取り入れることは、場面の様子を想像しながら役割読みをできるようになるための支援として効果的か。

(1) ねらい

場面の様子を想像しながら役割読みをすることができる。

(2) 準備

児童制作の紙芝居 教科書 保護者用の資料(配布済み) 相互評価カード  
自己評価カード

(3) 展開

学習活動	時間	学習活動への支援（ ）及び留意点（ ）	評価項目（評価方法）
1 本時のめあてを知る。  がまくん，かえるくんの気持ちや場面の様子が分かるような音読をしよう。	5	自己評価カードを見て本時のめあてを確認させる。  今までの読み取りを音読に生かすように働きかける。	
2 グループに分かれ，紙芝居を使ってそれぞれの場面の役割読みをする。	30	努力を要する状況の児童への手だて（教師） ・言葉のまとまりを意識した範読を聞かせ，音読練習を繰り返す支援をする。 ・誰が何をしているのか，どんな場面なのかを，再度，一緒に読み取る。  おおむね満足できていると判断される状況の児童への手だて（学習ボランティア） ・支援カードを使って，個に応じた支援を行い，よさを認める。 ・音読の工夫の根拠や理由について，児童と会話のやりとりをする。	読：読み取ったことを自分なりに工夫して音読している (観察・発表)
3 続きの場面のグループ同士で聞き合い，相互評価する。		音読を聞き合わせ，よいところを相互評価させる。  努力を大いに認める。	(相互評価カード)
4 教室に集まり自己評価カードを記入する。	10	次時の活動を伝える。	(自己評価カード)